

流域治水の推進と国土管理

－防災と環境を軸とした展望と課題－

主催：国立大学法人名古屋工業大学高度防災工学センター
共催：東海圏減災研究コンソーシアム、応用生態工学会名古屋
後援：国土交通省中部地方整備局

日時：2023年3月23日（木）13:30～17:15

ハイブリット開催（参加費無料）

場所：名古屋工業大学NITech Hall



アクセス↑
NITech Hall

基調講演

「人口減少時代における気候変動適応としての生態系を活用した防災減災（Eco-DRR）」

吉田丈人（東京大学大学院総合文化研究科・准教授）

自然がもたらす恵みと災いは表裏一体である。災いをしなやかに避けながら、恵みを賢く利用していくことが、持続可能な社会の実現には欠かせない。一方、多くの地域社会では人口減少が進行している。都市的な土地利用への需要が低下するなか、気候変動により頻発化・激甚化する災害ハザードへの暴露を下げ、自然または半自然の生態系として土地を利用することで、生態系の多様な機能を活用した防災減災（Eco-DRR）が実現できる。地域社会にEco-DRRを実装するには、地域の多様な関係者が連携して、伝統的な知識・技術の活用や自然の多様な機能を組合せていくことが鍵となる。



専門は、生態学、陸水学。京大大学生態学研究センター、コーネル大学生態学進化生物学部などを経て、現在、人間文化研究機構総合地球環境学研究所と東京大学大学院総合文化研究科を兼務。

話題提供&クロストーク

以下のメンバーで話題提供を行った後、吉田丈人先生をお迎えしてクロストークを行います。



萱場祐一
名古屋工業大学
教授



森照貴
土木研究所
自然共生研究センター長



戸田祐嗣
名古屋大学
教授



原田守啓
岐阜大学
准教授



特別コメンテーター
秀島栄三
名古屋工業大学
教授

シンポジウム概要

令和2年に打ち出された流域治水は今までの河道とダムを中心とした治水方式を抜本的に変える可能性を有している。しかし、流域治水を進める中で、国土管理を防災・環境の両面からどのように進めるかについては、未だ明確なビジョンが示されておらず、今後様々なステークホルダーを巻き込みながら議論を進めて行く必要がある。本シンポジウムでは、上記視点に立ち、工学、生態学の分野から話題提供を頂くとともに、議論を進め、これからの国土管理の在り方、また、特に、河川にフォーカスした場合の流域における河川の在り様について考えて見たい。

プログラム詳細

13:30~13:35 開会挨拶：木下隆利（名古屋工業大学学長）

13:35~13:40 来賓挨拶：舟橋弥生（中部地方整備局河川部長）

13:40~13:45 主旨説明：萱場祐一（名古屋工業大学・教授）

13:45~14:45 講演

人口減少時代における気候変動適応としての生態系を活用した防災減災（Eco-DRR）
吉田丈人（東京大学）

14:45~15:00 休憩

15:00~16:00 話題提供

流域と河川の包括的な治水バランスと多様性評価に向けて 萱場祐一（名古屋工業大学）
流域治水の推進と生物多様性保全との相性 森照貴（土木研究所）
流域治水における治水と環境を両立した河道管理を考える 原田守啓（岐阜大学）
河道における地形×植生管理の新たな視点 戸田祐嗣（名古屋大学）

16:10~17:10 クロストーク

コーディネーター：萱場祐一（名古屋工業大学・教授）

17:10~17:15 閉会挨拶：井戸田秀樹（高度防災工学研究センター長）

参加登録はこちらから（参加費無料）

会場参加希望の方はこちら
（先着150名）



WEB参加希望の方はこちら
（先着1,000名）



URL

<https://forms.gle/mtdkCkJKdP1GJxuQ7>

URL

https://zoom.us/webinar/register/WN_xB_UMpQTTIaWewxsIB5-Dg